



# 自治体ワンチーム 中期活動方針 (2021-2024)

2021年8月  
ラグビーとの地域協創を推進する自治体連携協議会



# I はじめに

ラグビーの応援・発展を志す全国の自治体で構成する本協議会は、（公財）日本ラグビーフットボール協会（以下「JR FU」という）と連携して、日本全国におけるラグビーの発展に向けた活動を推進しています。

2021年3月、JR FUが新たな中期戦略計画を策定したことを受けて、本協議会は、JR FUに寄り添って取り組んでいくとともに、加盟自治体のラグビーに係る施策へのサポートとするため、ここに今後4年間の中期活動方針を策定しました。

## <活動理念>

### ラグビーが世界一身近にある“まち”へ

～日本におけるラグビー人気定着を図り、将来的にはラグビーワールドカップの再招致等を見据えた機運を醸成する～

＜活動方針＞ 3つのkeywordを中心に事業目的に沿った活動を行っていく。

“ つなげる ”

“ 広げる ”

“ 創る ”



(参考) ラグビーワールドカップ2019™日本大会 大会ビジョン「絆 協創 そして前へ」

＜活動目的＞

目的

JRFUの事業展開等を踏まえ、各自治体の方針等に基づき事業の実施・連携を図る。

1. ラグビーの普及、振興
2. ラグビーを行う環境の整備促進
3. ラグビーを契機とした地域振興、まちづくりの促進
4. 青少年・社会教育活動の促進

連携

JRFU

JAPAN RUGBY  
中期戦略計画  
2021-2024

## Ⅱ 中期活動方針の全体構成



方針	目 標		JRFU計画との連携
“つなげる”	1	自治体間の情報共有・意見交換の場を創出する	【アクションプラン4】 既存事業の価値化最大と収入機会の多様化 【アクションプラン6】 非イベント収入機会の確保と強化
	2	自治体とJRFUや民間企業との連携を強化する	
	3	青少年、社会教育活動を促進する	
“広げる”	4	自治体のまとまった声を、国やステークホルダーに広く伝える	【アクションプラン12】 RWC2019レガシーと普及環境の整備
	5	ラグビーを普及・振興する	
“創る”	6	ラグビーを行う環境を整備促進する	【アクションプラン14】 社会連携・国際連携のための体制確立 ※その他連携可能なプラン含む
	7	ラグビーを契機とした地域振興・まちづくりを促進する	

## Ⅲ 3つの方針と7つの目標



### ① “つなげる”

ラグビーワールドカップ2019™日本大会では、組織委員会、JRFU、開催自治体、大会スポンサーなど多くのステークホルダーが大会に関わり、その価値を高めていった。

自治体ワンチームを通じて、これらのつながりをより強いものとし、発展した関係を構築するための取組を進めていく。

#### **1 自治体間の情報共有・意見交換の場を創出する**

ラグビーの応援・発展を志す自治体がつながる場を多く作り、効果的な自治体施策につなげる。

【想定される取組例】総会、幹事会、分科会の開催、交流会の開催など懇談する機会の設定

#### **2 自治体とJRFUや民間企業との連携を強化する**

ラグビーの普及・振興事業等を行うJRFUやラグビーに関心を持つ企業と自治体が交流する機会を提供し、協働での取組等につなげる。

【想定される取組例】連携プラットフォームでの連携

#### **3 青少年、社会教育活動を促進する**

学校教育への活用などラグビーの教育的価値を次世代を担う子どもに継承し、ラグビーの社会的プレゼンスを向上する。

【想定される取組例】学校現場との連携

関連するJRFU計画：6 非イベント収入機会の確保と強化（自治体ワンチームとの連携強化等）  
12 RWC2019レガシーと普及環境の整備（教育プログラムの整備等）



## ② “広げる”

大会を契機に日本全国でラグビーの盛り上がりが起こり、活動する場や指導者の派遣などラグビーニーズが高まっている。

自治体ワンチームに多くの自治体が集まることにより、自治体としてのまとまった活動を可能とすると共に、ラグビーに係る施策検討に広がりを持たせる。

### 4 自治体のまとまった声を、国やステークホルダーに広く伝える

国やステークホルダーへの要望等を通じて、自治体のまとまった声を広く伝えると共に、民間企業との連携等により、新たな知見等を広げていく。

【想定される取組例】 国等への要望

### 5 ラグビーを普及・振興する

他の自治体やJRFUとの協働により、より効果的なラグビー普及・振興の施策を行う。

【想定される取組例】 ラグビーワールドカップメモリアルキャンペーン

関連するJRFU計画： 4 既存事業の価値化最大と収入機会の多様化（自治体ワンチームとの全国横断プログラム等）  
12 RWC2019レガシーと普及環境の整備（RWC2019開催12都市との連携等）



### ③ “創る”

ラグビー憲章の中にあるラグビーに根差す精神を表す5つの言葉（※）に代表されるように、ラグビーは多様性、包含性を重視するスポーツである。

地域振興やまちづくりなど、ラグビーを通じた新たな価値の創出を目指していく。

※ 5つの言葉：「品位」「情熱」「結束」「規律」「尊重」

#### **6 ラグビーを行う環境を整備促進する**

ラグビーをやりたいと思ったときに、“誰でも、いつでも、どこでも”取り組める環境をハード・ソフトの両面から整備促進する。

【想定される取組例】ラグビー事業に取り組む自治体に対するサポート体制の充実

#### **7 ラグビーを契機とした地域振興・まちづくりを促進する**

地域振興やまちづくり、SDGsの先進的な取組の共有などにより、効果的な自治体施策につなげる。

【想定される取組例】先進事例のWEBページでの情報発信

関連するJRFU計画：12 RWC2019レガシーと普及環境の整備（活動拠点の整備等）

14 社会連携・国際連携のための体制確立（ラグビーを通じた社会貢献活動の構築）